



# 令和6年度 宮古市経営方針

## 宮古創生 多様な個が輝くまちづくり

令和6年2月13日



サーモンランドみやこ

# 令和6年度 宮古市経営方針

## 1 はじめに

このたびの令和6年能登半島地震により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。一日も早く心休まる日が訪れるよう、地域が一日も早く復旧・復興されることを願っています。

本市はこれまでに、義援金の募集や避難者を受け入れる市営住宅を確保しているほか、陸中宮古青年会議所を通じて簡易トイレを提供しております。また、総務省のパートナー支援に基づく、石川県能登町への職員派遣を予定しております。

東日本大震災の経験を活かし、現地の円滑な活動に配慮しながら、被災地のニーズに合わせた支援を行ってまいります。

## 2 基本姿勢

私は、市長就任以来、「安定した仕事を持って、子どもを幸せに育てられるまち」の実現に向け、「公正・公平・公開」を信条とし、市民の皆様との「対話」を重視した市政運営を行ってまいりました。

施策の推進にあたり、市議会はじめ、市民の皆様から頂戴した貴重なご意見、ご提言に改めて感謝申し上げます。

未来は、市民の総力で作り上げていくもの。

「宮古創生」、持続可能なまちの実現に向け、共に歩みを進めてまいりましょう。

長期化する物価高騰が、市民生活や地域経済に大きな影響を及ぼしております。本市が示す「誰一人取り残さない」という姿勢のもと、一日でも早く安定した市民生活を取り戻せるよう、「暮らし・経済対策」に取り組んでまいります。

昨年、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、市民生活や観光など、まちに賑わいが戻ってきました。

5月、将棋の第8期叡王戦第4局、藤井聡太八冠（当時六冠）と菅井竜也八段による激戦はメディアに大きく取り上げられました。

大盤解説会には県内外から200人が訪れ、インターネット視聴数は500万ビュー、SNS表示回数は200万回を超えるなど、歴史的な勝負とともに、遊覧船「宮古うみねこ丸」や「川井ペリーラ」など本市の魅力を十分に発信したプ

ロモーションとなりました。

8月、宮古港には、県内寄港過去最大のクルーズ船「MSCベリッシマ」の壮大な姿がありました。過去最多の8隻のクルーズ船の寄港は、県内に大きな経済効果をもたらしました。

三陸沿岸の中央に位置する地理的要件と、大型船が入港可能な優位性を活かした海の玄関口として、宮古港からの人流を広く波及させてまいります。

9月、パートナーシップ・ファミリーシップ制度を導入しました。

誰しものが社会を構成する一員として共に生き、存在価値を認め合い、そして、個性が発揮できる地域社会にしていかなければなりません。

人権を尊重し、多様性を認め合う社会の実現に向け、理念の浸透を図ってまいります。

本年1月、第100回東京箱根間往復大学駅伝競走における青山学院大学の2年ぶり7回目の総合優勝は、交流する本市に大きな感動を伝えてくれました。

また、本市出身で日本大学2年生の中澤星音<sup>せおん</sup>さんは、復路のエース区間9区を力強く走り抜き、襷を繋ぎました。

まもなく、東日本大震災から13年を迎えます。

私たちは、災害の歴史と経験を次代につなげていく責務があります。命を守るための発信を続けてまいります。

引き続き、被災した方々に寄り添い、生活支援に取り組んでまいります。

令和6年度は、市の最上位計画である宮古市総合計画「後期基本計画」、人口減少対策、定住促進対策の取組をまとめた「第3期宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定します。

本市は、人、地域、企業や団体など、たくさんの大きな魅力に溢れています。

その資源に着目し、個々の魅力を磨き、輝かせ「強み」に変え、繋げていくことこそが、持続可能なまちづくりの原点であると考えております。

これまでの取組を検証し、本市の将来像の実現に向け各施策を推進してまいります。

令和6年度の施策の概要について説明いたします。

### 3 新年度予算の概要

令和6年度における一般会計当初予算案は、市民生活や地域経済を支え、資源を磨き、強みに変えていく「多様な個が輝くまち」の実現に向けた予算編成を行い、総額362億1,600万円といたしました。

このうち、まちづくりを推進する重点事項として、地域脱炭素の実現と地域内経済循環の拡大に関する事業に13億5,814万8千円、宮古駅前再開発の準備と賑わいのある中心市街地の形成に向けた事業に8,719万9千円を計上いたしました。

また、地域産業の振興に3億2,708万2千円、少子化対策に7億3,575万4千円を計上しております。

そのほか、国民健康保険、介護保険事業などの特別会計当初予算総額が132億4,058万8千円、水道及び下水道事業の公営企業会計当初予算総額が56億4,032万1千円で、すべての会計を合わせた予算案の総額は550億9,690万9千円といたしました。

### 4 重点事項

多様な個が輝くまちづくりは、総合計画及び4つの重点事項により推進してまいります。

#### (1) 地域脱炭素の実現と地域内経済循環の拡大

重点事項の1点目は、地域脱炭素の実現と地域内経済循環の拡大です。

省エネルギー化と再生可能エネルギー導入の取組を加速させてまいります。

令和6年度は、住宅の省エネ化を促進するため、高効率機器更新に対する支援制度を創設いたします。

国や県が実施する支援制度の活用を促しながら、断熱改修、ZEB・ZEH、長期優良住宅化など、建物の省エネ化を図ってまいります。

公共施設への太陽光発電設備の設置は、PPA方式による導入を進めてまいります。

地産電源を確保するため、田老太陽光発電所の隣接地に夜間連系太陽光発電所を新設し、令和7年度の稼働に向け事業を進めます。

この発電所の設置は、併設する蓄電池を活用し、夕方から夜間などに放電することで、既設の発電所と連携し、昼夜を問わず安定した地産の再エネ電気を供給する計画です。

事業の構築にあたりましては、市内事業者から出資を募るほか、市民ファンドの募集も行う予定としております。市も事業に積極的に関わり、地元参加型の発電事業となるよう取り組んでまいります。

併せて、宮古新電力による家庭向け再エネ由来電力の令和6年度供給開始に向け、検討を進めてまいります。

宮古市地球温暖化対策実行計画では、市全域において、二酸化炭素の排出量を2030年度までに2013年度比で、50パーセント削減することを目標としています。

また、「脱炭素先行地域」においては、対象エリアにおける家庭や事業所などの民生部門の二酸化炭素排出量を、2030年度までに実質ゼロにすることを目標としています。

目標達成に向けては、市民や事業者の皆様と共に取り組むことが不可欠です。支援制度の充実と普及啓発に取り組み、行動変容を促してまいります。

## **(2) 宮古駅前再開発の準備と賑わいある中心市街地の形成**

重点事項の2点目は、宮古駅前再開発の準備と賑わいある中心市街地の形成です。

宮古駅前再開発に向け、令和6年度は、民間事業者の技術的なノウハウや資金的な活力の活用について検討してまいります。

宮古駅周辺に人々が集い、交流が生まれ、賑わいが創出されることによって、中心部や地域の暮らしがより活力のあるものになるよう取り組んでまいります。

旧キャトル宮古の店舗は、老朽化により外壁が落下するなど、周辺に影響を及ぼしていることから、令和7年度の解体に向けた準備を進めます。

市道末広町線の無電柱化工事は、令和6年度に完了いたします。

安全・安心な歩行空間が賑わいを呼び、まちの魅力発信の契機となるよう取組を進めてまいります。

## **(3) 地域産業の振興**

重点事項の3点目は、地域産業の振興です。

産業の活性化を図るため、事業者の経営を支え、挑戦を後押ししてまいります。市内経済の回復に向け、「事業の継続」と「雇用の維持」の基本方針により、事業者を支援してまいります。

持続可能な第一次産業を築くため、担い手や後継者の確保・育成に継続して取

り組みます。

本市経済をけん引する電子・コネクタ産業、木材、水産加工など、製造業の人材育成を支援してまいります。

若者の移住、U・Iターンの促進や地元定着につながるよう、関係機関・団体と連携し、まちの魅力や多様な活躍の場など情報発信を行ってまいります。

各漁業協同組合と連携し、ALPS処理水の海洋放出の影響を注視しながら、販売促進や販路拡大を支援してまいります。

魚類養殖は、宮古トラウトサーモン、ホシガレイの取組を強化してまいりました。

宮古トラウトサーモンは、約250トンの出荷を見込んでおります。中間育成から海面養殖までの養殖サイクルを構築し、生産量の拡大を目指してまいります。

また、田老町漁業協同組合において、ウニ、ナマコの複合陸上養殖に取り組んでおります。

令和6年度は、新たに漁業者が実施するウニの畜養を支援し、生ウニの通年出荷に取り組んでまいります。

ジビエの活用に向け、処理加工施設の基本設計に着手いたします。

クルーズ船は、「ロイヤル・プリンセス」など初寄港の5隻の外国船や、宮古発着クルーズを行う「にっぽん丸」など、過去最多となる9回の寄港が予定されています。

クルーズ船の寄港を地域経済の活性化と、児童生徒の交流や学習の機会とした次世代の育成につなげてまいります。

「みちのく潮風トレイル」は、全線開通5周年を迎えることから、本市を会場に記念式典を開催します。

外国人旅行者が増加しており、「Trail town MIYAKO」を発信し、海外ハイカーの誘致にも取り組んでまいります。

探求学習を目的とする教育旅行の誘致に向け、「学ぶ防災」など震災記憶の伝承事業や、昨年12月に再認定された三陸ジオパークを活用した誘客を図ります。

#### (4) 少子化対策

重点事項の4点目は、少子化対策です。

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進し、多様な働き方と子育てを支援してまいります。

日常生活の充実につながるよう事業者が行う労働環境の整備を後押しし、結婚・出産・子育ての希望をかなえる少子化対策に取り組んでまいります。

事業者や労働者のニーズを把握し、国や県が実施する各種支援制度を関係機関と連携し情報提供することにより、働きやすさ、働きがいのある労働環境づくりを支えてまいります。

出合いや、結婚を望む方々が参加しやすい「出合いの場」を積極的に提供してまいります。

県内一の子育て支援を掲げ、これまでに幼稚園・保育所の利用料や小中学生の学校給食の無償化、在宅子育て支援、18歳までの医療費給付、国保税の均等割の免除など、子育て世帯の経済的負担の軽減に努めてまいりました。

令和6年度は新たに、奨学金貸付制度における貸付要件と、返還にかかる免除要件を緩和し、進学を望む生徒を応援してまいります。

また、保健福祉部内に「こども家庭センター」を設置し、妊産婦、子育て世帯、子どもへの相談支援を一体的に行ってまいります。

これら、ライフステージに応じた切れ目のない支援により、「安定した仕事を持って、子どもを幸せに育てられるまちづくり」を進めてまいります。

## 5 総合計画

総合計画における7つの基本施策に基づく個別事業につきましては、当初予算書や予算に関する説明資料でお示ししております。

本方針では、事業の概要を説明いたします。

### (1) 三陸沿岸地域の拠点都市としての基盤形成

基本施策1、三陸沿岸地域の拠点都市としての基盤形成についてです。

市民生活に欠くことのできないインフラ整備や施設の老朽化対策は、計画的・効率的な施設マネジメントを行ってまいります。

昨年12月、宮古盛岡横断道路「田鎖臺目道路」の工事に着手しました。

「箱石達曾部道路」の整備促進、国道340号及び主要地方道重茂半島線などの未改良区間の早期事業化について、国や県への働きかけを継続してまいります。

三陸沿岸道路は、津軽石パーキングエリアにおいてトイレ等休憩施設の整備に着手しました。引き続き、追越車線の設置やハーフインターチェンジのフル化、案内看板の充実など、開通後に見えてきた新たな課題の解決に向け、機能強化を国に働きかけてまいります。

重要港湾宮古港の機能強化や港内の静穏度の確保、耐震強化岸壁の整備について、その必要性を強く訴えてまいります。

地域公共交通を維持し、利用環境を整え、持続可能な公共交通体系の構築を図ってまいります。

三陸鉄道「八木沢・宮古短大駅」は、宮古短大側からのアクセス改善に向け事業を進めてまいります。

J R山田線の利用促進につなげるため、盛岡市との連携や閉伊川流域の資源を活用した「Hey-River 自然体験」ツアーを実施してまいります。

## (2) 活力に満ちた産業振興都市づくり

基本施策2、活力に満ちた産業振興都市づくりについてです。

産業立市を推進する基本的事項を定めた「産業立市ビジョン実行計画」の次期計画の策定に取り組みます。

農業は、事業拡大を支援するなど、農業所得の向上を目指してまいります。また、有害鳥獣駆除を強化し、野生鳥獣による被害の抑制に努めてまいります。

林業は、森林環境譲与税を活用し、森林資源の整備に取り組むとともに、横沢温泉静峰苑に木質バイオマスによる温水ボイラーを導入し、森林資源の循環を図ってまいります。

水産業は、養殖漁業、栽培漁業、魚類養殖による「つくり育てる漁業」を強化してまいります。

観光業は、就航後6万人に乗船いただいた遊覧船「宮古うみねこ丸」の更なるPRや、貸し切り運航、企画運航による誘客を図ります。

旅の目的地へと変化した「道の駅」は、それぞれの特徴を活かし、選ばれる道の駅として、計画的に施設環境を整えてまいります。

活力ある商業活動につなげるため、宮古商工会議所や金融機関、商店街振興組合などと連携し、新規創業や事業承継を支援してまいります。

製造業は、業況とニーズを把握し、安定した事業の継続、人材育成と雇用の場の確保・定着を支えてまいります。

企業立地は、企業立地優遇制度を活用した工場増設が進んでおり、引き続き、市内への新規立地、既存企業の増設等を後押ししてまいります。

災害に強い工業団地の整備に向けて、適地選定調査結果を基に、整備に向けた調査を引き続き行ってまいります。

宮古港の利用促進を図るため、貨物量とクルーズ船寄港の増加に向けた荷主や船会社などへの積極的なセールス活動を展開いたします。

フェリー航路は、「2024年問題」による貨物動向の変化と物流企業などのニーズを的確に捉え、早期再開に向け取り組んでまいります。

### (3) 安全で快適な生活環境づくり

基本施策3、安全で快適な生活環境づくりについてです。

市民が安全で安心な環境のもと快適な日常生活を送れるよう、交通安全、防犯、消費者保護など環境整備に取り組んでまいります。

防災につきましては、日本海溝・千島海溝地震津波に対する備えを着実に進めてまいります。

グリーンピア三陸みやこを「宮古市防災拠点施設」に位置付け、津波への備えや激甚化する災害への態勢を整えてまいります。

勤労青少年体育センター跡地に「宮町防災資機材倉庫」を整備するとともに、防災士養成研修、地域の自主防災組織の支援と合わせ、地域防災力の向上を図ってまいります。

また、消防は、消防施設の整備、消防団の活動環境の向上と団員確保に取り組んでまいります。

宮古市災害資料伝承館は、令和7年度の利用開始に向け、施設整備を行います。安全で快適な暮らしをつくる住環境は、住宅の耐震化や省エネ化、ブロック塀撤去などを支援してまいります。

また、空き家の取得やリフォームへの支援制度を拡充し、解体撤去と併せ、資産の有効活用を促してまいります。

資源物の処理は、これまでのプラスチック製容器包装と白色トレイに、新たに製品プラスチックを加え、「プラスチック」としての一括収集を開始いたします。

上水道事業は、津軽石・赤前地区において、水源を変更するための整備を継続し、令和7年度の供用開始を目指してまいります。

下水道事業は、大雨による浸水対策として、令和9年度の完了に向け「築地雨水ポンプ場」の整備を進めてまいります。

### (4) 健康でふれあいのある地域づくり

基本施策4、健康でふれあいのある地域づくりについてです。

すべての市民が、住み慣れた地域で安心して生活できる「いきいき健康都市」の実現に取り組めます。

宮古市健康増進計画をはじめ、食育、歯と口腔の健康づくり、自殺対策の4計画について、次期計画の策定に取り組めます。

健康診査や各種がん検診は、人間ドック受診に係る費用助成の対象年齢を拡充し、受診率の向上と事後指導の充実に取り組んでまいります。

医療体制は、医師等養成奨学資金制度を継続し、地域医療を担う人材の確保につなげてまいります。

「宮古市子ども条例」の理念に基づいた子育て支援を推進し、宮古市立保育所等適正配置計画に基づき、山口保育所の移転を進めます。

「第4期宮古市障がい者計画」に基づき、各種福祉サービスの充実や社会参加の促進を図ります。

新たに事業者が設置する児童発達支援センターにおいて、通所や訪問による機能訓練を行い、児童の発達や家族の支援を実施してまいります。

生活困窮や社会的孤立など様々な生活課題を抱える方々には、一人ひとりの状況に応じた支援を行ってまいります。

「いきいきシルバーライフプラン2024」に基づき、医療、介護、介護予防や生活支援など、高齢者福祉に包括的に取り組みます。

また、高齢者補聴器購入助成制度など、ニーズに応じた介護予防・重度化防止サービスを提供してまいります。

国民健康保険は、特定健康診査や特定保健指導の実施により、疾病の早期発見、重症化予防に努めてまいります。

健康の保持増進及び経済的負担の軽減のため、子ども、妊産婦、ひとり親などの医療費助成を引き続き行ってまいります。

## **(5) 交流と連携による地域づくり**

基本施策5、交流と連携による地域づくりについてです。

多様な個人と人権が尊重される共生社会を構築し、参画と協働によるまちづくりを進めてまいります。

地域自治組織や、市民活動団体などが行う自主性や自律性ある活動を積極的に支援してまいります。

国内や海外都市との交流は、民間交流の充実と相互理解の推進に取り組んでまいります。

技能実習制度や特定技能制度を活用した外国人労働者が増加しており、在留外国人の方々が安心して暮らしていけるよう宮古市国際交流協会と連携し、相談窓口の充実を図ってまいります。

移住定住の促進に向けて、サーモンランドプロジェクトによる関係人口の創出に取り組んでまいります。

青山学院大学、日本体育大学、早稲田大学など大学との交流を継続し、学生が地域を知り、地域が学生を応援する関係性をさらに深めてまいります。

## (6) 郷土を誇り次代につなぐひとづくり

基本施策6、郷土を誇り次代につなぐひとづくりについてです。

郷土の自然や歴史を学び、郷土愛を育み、夢や希望を持ち未来へ歩むひとづくりによる「教育立市」を推進してまいります。

詳細につきましては、「宮古市教育行政方針」により、教育長が説明いたします。

## (7) 新しい時代にふさわしい行財政運営の推進

基本施策7、新しい時代にふさわしい行財政運営の推進についてです。

経常的経費の削減に努め、限られた財源の重点的かつ効果的な活用を図り、持続可能な財政運営を行ってまいります。

公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設の計画的な管理と統廃合を進め、遊休施設の利活用に取り組んでまいります。

戦略的にデジタル技術の活用に取り組み、公共施設における利用申請や行政手続きのオンライン申請を順次、開始してまいります。

拡大する行政需要に応えるため、高い専門性を持つ人材の確保と主体的に行動し変化に対応できる人材の育成を図ってまいります。

昨年、宮古市職員コンプライアンス条例を施行しました。不当要求行為への対応やハラスメント対策を強化してまいります。

ふるさと納税、企業版ふるさと納税、ネーミングライツなどにより、自主財源の確保に継続して取り組んでまいります。

## 6 むすびに

本市は、先人たちが築き上げてきた礎のもとに成り立ち、東日本大震災や台風など過去のあらゆる災害から幾度も立ち上がり、今日を迎えています。

「郷土芸能は地域の宝であり誇り。その文化を継承していくのは私たちだ。今、私の居場所はここにある」。

わたしの主張宮古地区大会で、最優秀賞に選ばれた津軽石中3年の齊藤好花このかさんの言葉です。

齊藤さんは、「長い歴史の中で」と題した主張のなかで、震災で途絶えかけた郷土芸能「法の脇獅子舞」を当時の津軽石中生徒らが復活し、その郷土芸能を通じて、長い歴史の中に生きる一員になれたことを実感したと力強く発表しました。

昨年、結成50周年の記念公演を開催した山口太鼓の会。満員の客席に響き渡る太鼓の鼓動は、佐々木清会長をはじめ会員の皆様が築き、繋いできた技術と伝統の響きでした。

地域の買い物の困りごとを解決しようと、毎週、青空市を開催する鍬ヶ崎水曜の市。鍬ヶ崎元気市の会のメンバーが中心となり、令和4年に始まった取り組みは、昨年末までに80回を数え、買い物や語らいの場として地域に根付いています。

中心的役割を担う島崎秀男さんは、「地域に育てられた人として、鍬ヶ崎のため、宮古のため」と地域を支え続けます。

この例に違わず、市民一人ひとりが日々輝き、暮らしを紡いでいます。

地域が主体となった取組を通じ、子どもたちが育っています。

ここに住み、ここで生活する者として、地域を誇り、次代に襷を繋ぐ人でありたいと思います。

共に大地を耕し、種を蒔き続けましょう。

本市をはじめ、地方自治体は人口減少を起因とした経済の縮小やコミュニティの維持など様々な課題に直面しております。

これらの課題を市民の皆様と共有し、一つひとつ解決につなげ、「住めば宮古」「住むなら宮古」を目指し、挑戦を続けてまいります。

日々、変化する現実に対応し、「安定した仕事を持って、子どもを幸せに育てられるまち」の実現に向け、市民生活を支えてまいります。

### 宮古創生「多様な個が輝くまちづくり」

宮古市の都市の将来像『「森・川・海」とひとが調和し共生する安らぎのまち』を目指し、共に歩みを進めてまいります。

今議会には、令和6年度当初予算案とともに、関係議案等、いずれも宮古市の経営上重要な案件を提出しております。

よろしくご審議のうえ、ご賛同賜りますようお願い申し上げます。経営方針の説明とさせていただきます。